



食包協会報 第175号（2022年7月号）ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび第175号（2022年7月号）を公開いたしました。3編の記事を掲載しました。

今号より、記事の最後に顔写真を含めた著者情報を追加し、ご連絡先もいただいておりますので、記事内容のご質問、各種お問合せなどにも積極的にご利用ください。

1点目の記事では、一般社団法人日本試験機工業会(略称 JTM)・常務理事の富士原正義氏に、「未来につなぐ試験と計測 見せる信頼—確かな品質」と題してご執筆いただきました。材料試験技術、環境装置技術、展示・セミナー分野について、具体的な活動状況を紹介いただいた貴重な内容でございます。試験を通して産業界の安全と安心を支えていただいていることを、再認識いたしました。

2点目は、一般社団法人日本合成樹脂技術協会・理事の葛良忠彦氏に、「プラスチック包装・容器の使用樹脂の特長と成形技術」と題して今号と次号に分けてご執筆いただきます。今号（前半）はプラスチック包装・容器の種類と使用材料についての解説です。大事なエッセンスを凝縮し、最後に用語解説もいただきました。わたくし自身も「葛良先生」の著書で多くの学びを得たひとりであり、今号はもちろんのこと、次号もたいへん楽しみです。

3点目は、三井化学東セロ株式会社の成田淳一氏に、「北海道ブロッコリーアイスボックス代替輸送検討」と題してご執筆いただきました。成田氏は、ブロッコリーの北海道から埼玉への輸送が、現状では発泡スチロールにブロッコリーの重さ以上の氷を敷き詰めて常温環境で行われていることに着目しました。輸送形態の見直し、労働者の作業性の大幅改善、パレチゼーションの改善を鑑み、代替案として鮮度保持包装に包み、リユース可能なプラスチック製の折り畳みコンテナに入れての冷蔵輸送試験に挑戦されました。店頭に陳列したブロッコリーが、現状の輸送手段で送ったものと遜色がないことも、最終的に確認されています。一連の試験の様子からは関係者の熱い想いが伝わってきます。

弊協会 Web コミュニケーション委員会では、公平・中立の原則のもと、どのような企画をすれば皆様に関心を持っていただけるかといったことを常に問いながら、これからも魅力ある記事の発信に努めて参る所存です。引き続きよろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受け下さいました富士原様、葛良様、成田様に心から厚く御礼を申し上げます。

2022年7月28日
広報委員 橋本 香奈